

1. 科目名 (単位数)	心理実践実習Ⅱ (1単位)		
2. 授業担当教員	齋藤 瞳、若松 直樹、柴原 直樹、山田 一子、野口 理英子、後藤 進吾、家近 早苗、平久江 薫、麻生 奈央子、鈴木 克也、新井 雅人、大島 朗生、中里 克治	3. 科目番号	PSMP5273
4. 授業形態	実習	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	
7. 講義概要	<p>大学附属臨床心理相談室における学内実習を通して、インテーク面接陪席、心理面接陪席、ケース担当による実習をおこなう。また、医療機関等における学外実習を通して、心理支援活動の実際を学ぶ。</p> <p>各学生は、大学附属臨床心理相談室にてスーパーヴィジョンを受けながらケースを担当する。また、インテーク面接陪席や心理面接陪席の記録と報告、担当ケースの記録、ケースカンファレンスにおける発表を行う。学外実習においては、医療・保健領域や福祉領域等における実習施設にて、心理臨床の技能や態度、倫理や連携を学ぶ。事前指導としてのガイダンス、学外実習施設における見学、陪席、一部参加、補助的担当、実習報告書提出等をおこなう。</p>		
8. 学習目標	<p>心理面接の実践を通して、実際の場面で起こる心理援助のさまざまな側面について対処力を身につける。</p> <p>学内実習では、スーパーヴィジョンを受けながらケースを担当し、ケース報告をまとめ、ケースカンファレンスで発表することにより、心理支援における実践能力の向上を図る。</p>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	ケースを担当する前後に、ケースに関連した文献を検索し、読んでおくこと。		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】特になし</p> <p>【参考書】日本心理臨床学会の心理臨床学研究, 日本カウンセリング学会のカウンセリング研究などの学会誌の事例論文をよく読むこと</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学内実習において、スーパーヴィジョンを受けながらケースを担当した。</li> <li>2. 1の担当ケースについてケース報告をまとめ、ケースカンファレンスにて発表を行った。</li> <li>3. 自身が発表者ではない回のケースカンファレンスにおいても、十分な取り組みが見られた。</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>学外実習報告等 30%、ケース担当の状況 40%、授業への参加態度 30%</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実際のケースに触れる中で心理支援における実践的な能力を身につけることを目指す。実習においては実際のクライアントを担当し、援助を行うこととなる。気を引き締めて真摯に取り組むことが求められる。</li> <li>2. これまでの人間関係や社会生活を活かしながらも、それに固執せず、心理職の専門性を謙虚に学ぶ姿勢で、それぞれの活動に取り組むこと。</li> <li>3. 授業は正当な理由がない限り、欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合は、その理由を必ず教員に書面をもって報告すること。</li> </ol>		
13. オフィスアワー	各教員から周知する		
14. 学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】			
1. テーマ	オリエンテーション		
2~14. テーマ	<p>大学附属臨床心理相談室において、インテーク面接の陪席を行い、陪席の記録をまとめて指導を受け、インテークカンファレンスで報告するという一連の活動をおこなう。</p> <p>【学習の目標】心理面接の陪席に関しても、同様の活動をする。</p> <p>【学習の内容】実際にケースを担当し、その記録をまとめること、また、スーパーヴィジョンを受け、ケースカンファレンスで報告し、検討するという一連の活動をおこなう。</p> <p>【学習する上での留意点】学外実習にて、心理支援活動のほか、組織での働き方、仕事を行う上での倫理等に触れ、体得していく。心理支援における倫理について、具体的に検討し、そのセンスを身につける。</p>		
15. テーマ	ふりかえりとまとめ		